

CNALレポート・ジャパン

Conferencing industry News report, research & Analysis - CNA Report Japan

創刊：1999年12月

発行日：毎月15日・月末

取材・編集・発行：橋本啓介

テレビ会議・ウェブ会議・電話会議システム専門 定期レポート

Vol. 14 No.2 2012年1月31日号

編集:editor@cna.jp 広告:pr@cna.jp 読者登録:<http://cna.jp>

Copyright 2012 CNA Report Japan. All rights reserved.

製品・サービス動向-国内

ネットワンシステムズ、Cisco Cius 販売開始、
デスクトップ PC とコミュニケーションを全て仮
想化するシスコ提唱の VXi に対応

ネットワンシステムズ株式会社(東京都品川区)は、仮想デスクトップに対応したシスコシステムズのユニファイドコミュニケーション端末「Cisco Cius(シスコシアス)」の記者向けデモ体験会を2011年12月20日に開催した。



Cisco Cius-メディアステーションに置いた状態(ネットワンシステムズ資料)



Cisco Cius-タブレット端末としての利用例(ネットワンシステムズ資料)

ネットワンシステムズは、米シスコシステムズ認定ゴールドパートナー資格を持つ日本を代表するネットワークインテグレーター。遠隔会議関連ではユニファイドコミュニケーションやテ

レプレゼンスを積極的に推進している。最近は、これらと仮想化技術とを組み合わせるソリューションにも力を入れている。

同社は、IDC Japan の予測データを引き合いに出しながら、仮想デスクトップの導入率は年々拡大しており、2013年から2014年には、3台に1台の割合でクライアント端末の仮想化が普及していきだろうと説明する。

しかしながら、従来の仮想化ではデスクトップと、電話やWeb会議などのコミュニケーションを連動させることはできないという課題があった。

そこで、ネットワンシステムズでは包括的なデスクトップ仮想化ソリューション VXi(Cisco Virtual eXperience Infrastructure)を提案している。この VXi は、デスクトップ PC だけでなく、コミュニケーション環境も含め、ディスプレイとキーボードがあれば全てを仮想化する VDI と UC 統合ソリューション。これによって、運用管理コスト削減、セキュリティ対策、災害対策/事業継続性、生産性向上/ワークスタイル変革といった VDI のメリットをコミュニケーション環境まで広げることができる。

「Cisco Cius」(製品発表:2010年6月)は、この VXi 環境に対応したシスコネットワーク専用タブレット端末。基本機能として、メールや電話、あるいは、ビデオ通話、WebEx 会議に対応。アドレス帳やプレゼンスから相手にコールを開始したりできる。企業内内線端末として使えるとともに、またメディアステーションに置くことでデスクトップ PC (Citrix、VMware などの仮想化ソフトを使用)としても活用できる特長がある。つまり、外出先にタブレットとして持ち出して、社内に戻ってきた際にドックに置くことでデスクトップ PC としても使える。

マルチタッチスクリーン対応 7 インチ LCD(16:9)、5メガピクセルカメラ、マイクスピーカー内蔵。Android 2.2 に対応。

720pビデオ解像度。Wi-FiやLAN(PoE対応)ポートを搭載。その他、Bluetoothや、USB、MicroUSB、MicroSDにも対応。本体の重さは、520g。大きさは、225mm x 140mm x 15mm(ドックを除く)。バッテリー駆動は、6時間程度。



デスクトップPCとしての活用例(ネットワンシステムズ資料)

Cisco Ciusは、最近注目されているJailbreakされる危険性はなく、また、シスコシステムズが認証したアプリのみ提供されるため、ビジネスユースに最適化されているという。またリモートによる一元管理にも対応している。

ネットワンシステムズでは、VXI対応端末としては、Cisco Cius以外に、スタンドアロン型のテレビ電話機能搭載機とディスプレイ、キーボード、仮想化ソフトなどを組み合わせた「VXC2100」や「VXC2200」も提供している。

今後ネットワンシステムズは、シスコシステムズが目指す「ビジュアル」、「仮想化」、「モバイル」、「ソーシャル」を軸にユーザに対してソリューションを提案していく考えだ。

富士通ソーシャルサイエンスラボラトリーのペーパーレス会議システム、Androidタブレットに対応

株式会社富士通ソーシャルサイエンスラボラトリ(川崎市中原区)は、ペーパーレス会議システム「Webコア Conference」が、従来のApple社製「iPad」、富士通製スレートPCに加えて、富士通製Androidタブレットの対応を行ったと発表。提供開始は、12月から。(2011年12月1日)

Webコア Conferenceは、2011年5月に発売。サーバに登録した会議資料を、無線LANを経由し、会議参加者が使用する端末の画面に表示することで紙の資料を不要とし、効

率的な会議運営を実現するシステム。

今回の対応で、Androidタブレットからも、画面タッチにより、ページめくり、資料の拡大縮小表示、手書きメモ、付箋の貼り付けなどが行えるようになった。Androidに対応したのは、タブレット市場でAndroidが43%のシェアをもっているため。

Webコア Conferenceは、株式会社ウィズダムウェブがiPad向けに開発したペーパーレス会議システム「Wisdom Web Conference」の機能を包含し、富士通ソーシャルサイエンスラボラトリが、富士通製スレートPC向け、Androidタブレット向け機能をあらたに追加・開発し、販売している。

動作確認機種は、富士通製Androidタブレット「ARROWS Tab(Android 3.2)」、富士通製スレートPC「STYLISTIC Q550/C(Windows7)」。Apple社製iPad(iOS 4.3、iOS 5.0)。

サーバーライセンスは、630,000円(税込み、以下同)。クライアントライセンス(1ユーザにつき1ライセンス必要)が21,000円。別途保守費用が必要。サーバはノートパソコン可。サーバ、富士通製Androidタブレット、富士通製スレートPC、Apple社製iPadは購入者にて別途用意。

出荷開始は、2011年12月12日。2年間で1,000セットを販売目標としている。

ラドビジョンジャパン、SCOPIA Elite MCUにローエンドモデル発売

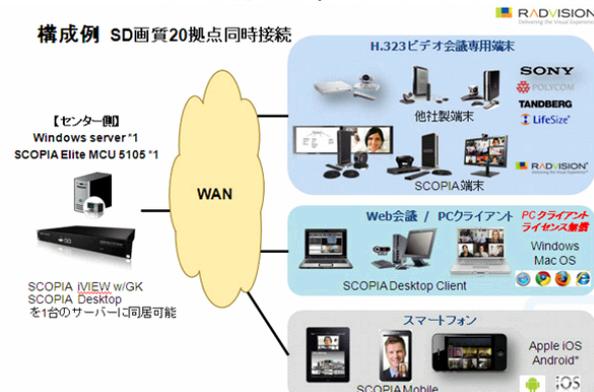
ラドビジョンジャパン株式会社(東京都台東区)は、同社が販売する多地点接続装置「SCOPIA Eliteシリーズ」にローエンドモデル「SCOPIA Elite 5105」をあらたに追加したと発表。(11月12日)

SCOPIA Eliteシリーズは、2009年9月発売以来、「SCOPIA Elite 5110」、「SCOPIA Elite 5115」、「SCOPIA Elite 5230」を提供してきたが、今回SCOPIA Elite 5105が追加されることで4モデルとなる。Eliteシリーズは今回発表のElite 5105も含め720pや1080p解像度までサポートする。

SCOPIA Elite 5105 は、ローエンドモデルでありながら、SCOPIA Elite の性能と機能を踏襲しつつ、同時接続ポート数を少なくし、価格もさらにリーズナブルにおさえた製品となる。

	Elite 5105	Elite 5110	Elite 5115	Elite 5230
HD 画面分割モード (~720p)	5	10	15	30
HD 単画面モード (~1080p)	20	40	60	120
SD モード (~352p, 4CIF)	20	40	60	120
SD モード (480p)	10	20	30	60

SCOPIA Elite ポート比較表 (ラドビジョンジャパン資料)



システム構成例 (ラドビジョンジャパン資料)

SCOPIA Elite シリーズの MCU は、各メーカーのビデオ会議専用端末やテレプレゼンスシステムその他、のデスクトップパソコン (Windows PC、MacOS)、スマートフォン/タブレット端末 (iPhone、iPad)、さらには、マイクロソフト社の「Lync」、や IBM 社の「Lotus/Sametime」などとの相互運用性を、ラドビジョンのシングルベンダーソリューションで提供できる特長を持っている。加えて、大規模導入においてかなめになる同社独自の仮想化技術「バーチャル MCU」により複数台の MCU が同時にカスケードされる機能も提供している。

「当社の MCU はハードウェアプラットフォームによって設計されているため、Web 会議などのサーバーソフトウェアに比べシステムの信頼性や拡張性などで優れている。安定した高品質な映像と音声、多地点接続を提供する。」(ラドビジョンジャパン)

Elite 5110 は、今までのローエンドの位置づけであったが、HD 単画面モードや SD モードで最大 40 ポート搭載していた。ただ、ユーザによっては、Elite 5110 はオーバースペックになる。そのため、当社の販売代理店からすると、今まで提案しづらい面もあったとラドビジョンジャパンは振り返る。

「Elite 5105 についての販売代理店の反応は非常に良かった。価格的には、ソフトウェアベースの Web 会議サーバと同等の価格帯までおさえることができた。とくに小規模利用を想定したユーザにとっては選択の幅を広げることができると思う。」(ラドビジョンジャパン)

Elite 5105 (システムバージョン: v7.7) は、バンドルモデルとして提供する。この MCU 本体に加えて、ビデオ会議運用管理ツール「SCOPIA iVIEW Suite」、ゲートウェイ「SCOPIA Gateway」、そして、「Desktop Pro and Mobile」ライセンス (5 ユーザ/50 ユーザ) をセットで提供する。

Desktop Pro and Mobile には、パソコンのみならずスマートフォンやタブレットも含まれる。その他、SD モードを「~352p と 4CIF」もしくは「480p」の 2 種類を提供する。ユーザは導入時にいずれかを選択する。ちなみに、Elite 5105 を拡張しポート数を増やす場合は、バーチャル MCU を活用する。

SCOPIA Elite 5105 の出荷は、2011 年 12 月に開始している。

ルーシッドの電話会議サービス、海外アクセスオプションにベトナムを追加

ルーシッド株式会社 (東京都渋谷区) は、同社の電話会議サービス「BizSpeak」の海外アクセスオプションにベトナムを追加したと発表。(2011 年 12 月 12 日)

これまで「アジア・太平洋地域プラン」には、香港、シンガポール、オーストラリアが提供されていたが、今回あらたにベトナムを追加したことになる。

ベトナムのハノイとホーチミンからの電話会議アクセス番号を提供することによって、ベトナムに拠点・取引先をもつ

企業(日本企業やベトナム企業)が、1,575円(30日間使い放題)、ベトナムおよびその他アジア・太平洋地域(香港、シンガポール、オーストラリア)から、何度でも日本との電話会議にアクセスをして、国内通話料で利用できるようになった。

30日間使い放題(1,575円/ID/4カ国)以外にも、3ヶ月使い放題(4,725円/ID/4カ国)、12ヶ月使い放題は、15,750円/ID/4カ国を提供している。サービス利用にあたっての詳細は同社に確認要。

ルーシッドによると、今後もその他の国からのアクセスについても順次提供を予定しているという。

製品・サービス動向-海外

米シスコシステムズ社、SMB(中小企業)を主なターゲットとした新製品/サービスを発表

米シスコシステムズ社は、SMB(中小企業)を主なターゲットとした新製品/サービスを発表した。(2011年10月26日)

今回発表された新製品/サービスのポイントは、3つある。(1)シスコシステムズ社が提供しているテレプレゼンスソリューションを、あらゆる規模の企業のニーズに対応させる。(2)テレプレゼンスを利用できる場を会議室専用から職場の机やあるいはモバイル環境へと広げる。(3)テレプレゼンスの活用をミーティング用途以外に広げる。



端末を購入もしくはリースして Callway サービスに接続(シスコシステムズ資料)

まず一点目のあらゆる規模の企業のニーズに対応する観点から発表されたサービスは、「Cisco TelePresence Callway」。このサービスは、月額 99 ドルで提供。その金額内で無制限にビデオコールできる。通話先は、シスコのテレプレゼンスは

もとより国際標準に対応した他社製テレビ会議システムも含まれる。また最大 12 人までの多地点会議も開催できる。

Cisco TelePresence Callway は、シスコシステムズ社が運営管理を行い、サービスの販売は同社販売パートナーから行われる。14 社のサービスプロバイダーとの連携で提供されるもよう。ただしサービスは北米のみ提供。

二点目のテレプレゼンスを利用できる場を広げるという点では、「Cisco Jabber Video for TelePresence(シスコ ジャババー ビデオ フォーテレプレゼンス)」と「Cisco TelePresence MX300」を提供する。

Cisco Jabber Video for TelePresence は、ソフトウェアアプリケーション。インターネットのウェブサイトから参加者を招待することでテレプレゼンスの会議に簡単に開催できる。モバイルワーカーや外部の顧客あるいは取引先の人達が無料でその会議に参加できる仕組み。なお、ベータプログラム(全世界)は、2012 年第1四半期開始の予定。



Cisco TelePresence MX300 利用イメージ(シスコシステムズ資料)

一方、Cisco TelePresence MX300 は、コストパフォーマンスを高め、業務にさらに統合しやすくしたモデル。箱から出せば 15 分ほどでセットアップ完了。1080p/30fps 対応。販売(全世界)は、2012 年第1四半期開始の予定。

三点目のテレプレゼンスの活用をミーティング用途以外に広げるというところでは、まず、テレプレゼンス端末でビデオをキャプチャーしたコンテンツを他のテレプレゼンスの会議参加者と共有できる機能を提供する。



Cisco TelePresence VX- Clinical Assistant 利用イメージ(シスコシステムズ 資料)

またもうひとつは、「Cisco TelePresence VX- Clinical Assistant」。医療用途専用開発された、カート付きのモバイル型遠隔医療端末。遠隔からの患者へのカウンセリングから、バーチャルケアチーム、あるいは遠隔医療教育などでの活用を想定している。販売開始(全世界)は、2012 年第1四半期開始の予定。

シスコシステムズ、「Cisco WebEx」と「Cisco Jabber」に関する発表

米シスコシステムズ社は、「Cisco WebEx」と「Cisco Jabber」に関する発表を行った。(2011 年 11 月 16 日)

今回発表されたソリューションは、コミュニケーションにおいて PC 中心(PC centric)から人中心(people centric)へと転換をクラウドベースのサービスを通して支援していくソリューションとなる。



Cisco WebEx HD ビデオ(シスコシステムズ資料)

Cisco WebEx においては、HD ビデオに対応した他、使い勝手をよくするための機能強化などを行っている。従来対応してきた「iPad」に加え、今回「Cisco Cius」や「iPhone」にも対

応した。また、iPhone と iPad から Voice over IP にて通話が行えるとともに、ワンボタンプッシュ技術によって、シスコのテレプレゼンスによる会議に簡単に参加できるようになった。さらには、API も提供。CRM などのアプリケーション連携も可能になった。



(左) Cisco WebEx Meeting Space(シスコシステムズ資料)

(左下)

Cisco Jabber ウェブブラウザプラグイン例(シスコシステムズ資料)

このほか、あらた



に「Cisco WebEx Basic Edition」も発表。これは、無料版。3 人同時までの会議、VoIP 音声とビデオ通話、インスタントメッセージング、プレゼンス、デスクトップ共有、250MB ストレージ。この無料版は、北米と南米、および欧州。ベータ

版は 2011 年 12 月開始。ベータ版の言語は、英語のみだが、2012 年第1四半期以降は、英語の他、フランス語、ドイツ語、スペイン語(カスティリア系とラテンアメリカ系)、ポルトガル語(ブラジル)に対応。

一方、Jabber 関連では、あらたに「Jabber Web プラグイン」を発表。これは、インターネットに接続されたウェブブラウザにシスコのユニファイドコミュニケーション機能を埋め込むアプリケーション。この Jabber Web プラグインを使い、プレゼンスやインスタントメッセージング、音声通話、ビデオ通

話がクリック一つで簡単にできる。

またこの Jabber Web プラグインには、ソフトウェア開発キット(SDK)を提供する。サポート関連は、Jabber デイベロッパープログラムを通して行う。登録にはまず、シスコデイベロッパーネットワーク(CDN)への登録から行う。サンプルコード、説明用ビデオ、サポート用オンラインコミュニティなどを利用できる。Windows や Mac に対応した IE、FireFox、Chrome、Safari の各ブラウザに対応している。

ビジネス動向-海外

ライフサイズ社、仮想化技術 VMware 社のテクノロジーアライアンスパートナープログラムに加入

ロジテック社のテレビ会議部門である、ライフサイズ社は、仮想化技術を提供する VMware 社の「VMware Technology Alliance Partner (TAP) プログラム」に加入したことを発表。(2011 年 12 月 14 日)

TAP プログラムの参加企業は、VMware 仮想化技術と統合させることで、“共通の顧客 (mutual customers)” 共同してタイムリーに顧客にソリューションを提供することを目的としている。2000 社以上の参加企業を擁しており、参加企業は、VMware に関する技術的やマーケティングサポート、そしてそれらに関するツールや専門知識などの対応を受けられるようになっている。ライフサイズ社の場合は、仮想化技術を使用したネットワーク環境でテレビ会議システムを動作させることを目的としているようだ。

ライフサイズ社のインフラソリューションはこの仮想化に対応しており、ファイアーウォール越えソリューション「LifeSize Transit」、デスクトップおよびモバイルソリューション「LifeSize ClearSea」は VMware 仮想化技術の環境に対応しているという。

展示会レポート

パイオニアソリューションズ、会議ソリューション展示会を開催

パイオニアソリューションズ株式会社は、ビジネス向け会議ソリューションの商品ラインナップを紹介する「パイオニア会議ソリューション展示会」を 1 月 20 日に東京都新宿区内で開催した。

展示会では、同社の遠隔会議システムのラインナップ「サイバーカンファレンスシステム・プライム」「ユビキタス・ステーション」をはじめ、TV などのメディアで話題の「ディスカッション テーブル」、新商品の「コラボステーション」などを展示。



展示会会場-左側がユビキタス・ステーション、前方右側はサイバーカンファレンスシステム・プライム。それぞれデモを行っているところ。(パイオニアソリューションズ資料)

サイバーカンファレンスシステム・プライムは、パイオニア 全社・全世界での活用実績・ノウハウを生かし開発された。

「音響メーカーパイオニアならではの高音質と、民生用商品も手がける当社ならではのワンタッチ簡単操作を特長としている。」(パイオニアソリューションズ)

システム販売方式と月額課金のクラウドサービスの提供方法がある。もともと大企業向けにソリューション販売をしていたが、クラウドサービスを展開しはじめたことにより、中小企業への導入が伸びているという。

ユビキタス・ステーションはオールインワン一体型商品で、ベースのソフトウェアは、サイバーカンファレンスシステム・プライムと同一。マイクスピーカーもセットになっており、より

手軽に導入可能な点が特長。大企業の部門導入や中小企業を中心に導入が進んでいるという。

ディスカッション テーブルは、テーブル型のタッチパネルシステム。紙、PC データ、デジタルカメラ、タブレット端末などの資料・データ(アナログ/デジタル)を簡単に取り込み、テーブル型の 52V 型の大画面に表示させることができるとともに、静止画やハイビジョン動画、PC 画面などの複数のコンテンツを同時に表示しながら、複数名で同時に拡大・縮小、ペン書き込みなどがおこなえる。

「コンテンツを一覧表示して比較しながら、会議参加者の理解度向上のための多彩な機能を有しており、そのユニークな操作感が注目されて、数々のマスメディアで取り上げられている。商品開発当初は、主に企業のディスカッション用途を想定していたが、大学などの研究機関、企業のショールームにも導入されている。」(パイオニアソリューションズ)



ディスカッション テーブルのデモを行っているところ展示会場とは別のショールーム室(パイオニアソリューションズ資料)

コラボステーションは、ディスカッション テーブルのキャリアブルスタンドモデルで同様の機能を有する。22V 型 LCD 搭載のコンパクトモデルのため、簡単に移動しながら場所を選ばずに会議を行えることが可能。ディスカッション テーブルやコラボステーションは、遠隔会議サイバーカンファレンスシステム・プライムと連携が可能で、離れた場所からの会議参加が可能となっている。

この他にも、70V 型と 60V 型のタッチディスプレイが展示されており、同社の得意とする書き込み機能を活用しながら、

大画面で見やすく情報がリアルに伝わることを訴求していた。

「パイオニアソリューションズでは、単なる遠隔会議システムメーカーとしてではなく、お客様のニーズに合わせたトータルな会議ソリューション、AV システムを提案することにより、お客様のコミュニケーションに新価値の創造に寄与していきたい。」(パイオニアソリューションズ)

なお、同様の展示会は2月17日にも開催する予定としている。

セミナー・展示会情報

< 国内 >

会議の効率化を実現！『ConforMeeting 無料体験セミナー』定期開催

日程:2月1日(水)、8日(水)、15日(水)、22日(水)、29日(水)
 ※全ての日程で 13:30~14:30、15:30~16:30 の2回開催
 会場:NEC 情報システムズ 本社(東京都港区)
 主催:日本電気株式会社、株式会社 NEC 情報システムズ
 詳細・申込:
<http://www.nec-nis.co.jp/topics/event/conformeeeting/seminar.html>

次世代コミュニケーション空間研究会 - 国際的な自動通訳機能テレビ会議システムの今後の可能性(後編)

日時:2月3日(金)13:30~15:30
 会場:秋葉原 UDX4F UDX オープンカレッジ
 主催:株式会社 新産業文化創出研究所
 詳細・申込:<http://www.town-college.com/udx/search/000277.php>

Web 会議 Adobe Connect のご紹介と活用事例

日時:2月8日(水)15:00~17:00
 会場:ゲートシティ大崎(東京都品川区)
 主催:株式会社サムライズ
 後援:アドビシステムズ株式会社、NECマグナスコミュニケーションズ株式会社
 詳細・申込:<http://www.samuraiz.co.jp/event/120208.html>

ビデオ会議で結んで 東京-大阪同時開催!

『ビデオ会議システム 円滑運用のノウハウご紹介』セミナー~複数メーカー新旧混在、異機種間接続を実現して既存システムを有効活用~

日時:2月7日(火)14:30~17:30
 会場:パナソニック電工インフォメーションシステムズ
 東京オフィスセミナールーム(東京都港区)
 主催:パナソニック電工インフォメーションシステムズ株式会社
 共催:パナソニック システムソリューションズ ジャパン株式会社
 シスコシステムズ合同会社
 詳細・申込:<https://event.panasonic-denkois.co.jp/public/seminar/view/200>

The Avaya Flare; Experience Day in Tokyo

～ 新しいコラボレーションの形を体験 ～

日時: 2月15日(水) 13:30～ (受付 13:00)

場所: 六本木ヒルズ森タワー(東京都港区)

主催: 日本アバイア株式会社

協賛: 伊藤忠テクノソリューションズ株式会社、エス・アンド・アイ株式会社、三井情報株式会社

詳細・申込: http://www.ibmajp/avaya_event/**パイオニア 会議ソリューション展示会**

日時: 2月17日(金) 13:30 ~ 18:00

会場: パイオニアソリューションズ(東京都新宿区)

主催: パイオニアソリューションズ株式会社

詳細:

http://pioneer.jp/ccs/catalog/pdf/ccs/120217_exhibition.pdf

< 海外 >

UC EXPO

日時: 3月6日～3月7日

会場: イギリス、ロンドン、Olympia London

主催: Imago Communications

詳細・申込: <http://www.ucexpo.co.uk/>**TeleSpan's Seventh Annual Future of Conferencing Workshop**

日時: 3月15日-3月16日

会場: アメリカ ラスベガス

主催: TeleSpan Publishing Corporation

詳細: <http://www.telespan.com/workshop/index.html>**EnterpriseConnect 2012(旧 VoiceCon)**

日時: 3月26日～3月29日

会場: アメリカ フロリダ州オーランド Gaylord Palms Resort & Convention Center

主催: United Business Media company

詳細・申込: <http://www.enterpriseconnect.com/orlando/>

*遠隔会議システムメーカーで出展しているところもある。

dtc-forum、ツイッター、フェイスブック

ツイッターとフェイスブック、dtc-forum を通して遠隔会議関係のニュースなど関連情報を日々配信しています。よろしければご覧ください。

>dtc-forum メーリングリスト

<http://cnar.jp/cna/dtcforum-ml.html>

> Twitter

日本語版: <https://twitter.com/cnarjapan>英語版: <https://twitter.com/cnarjp>

> Facebook

「テレビ会議・Web 会議・電話会議 & ユニファイドコミュニケーション研究会」

<http://www.facebook.com/unifiedcom>**編集後記**

今号もお読みいただきましてありがとうございました。

今回の定期レポートでは間に合いませんでしたが、今月は、リコーとポリコムジャパン、凸版印刷から新製品の発表、そして海外では、クリアワン社がイスラエルの VCON 社を買収といったニュースも入ってきています。その他カバーしていないニュースについても次号以降でレポートいたします。

私のミッションの根底には、(1)遠隔会議とは何か。(2)遠隔会議の可能性とは何か。(3)それらをどのように伝えていくか、といった3つの命題への探究がありますと前回申しましたが、このためには単に、遠隔会議システムの製品やサービス、事業、利用トレンドをワッチしていくだけでは難しいと考えています。

遠隔会議システムは、人間が使うわけですし、ある意味、遠隔会議がこの世に登場したのは、社会の中に存在する人間の営みから生まれてきたひとつの社会現象ですから、人間や社会、そして人間や社会を生み出した自然がわからなければ遠隔会議の本質への理解には到達しないでしょう。自然科学や社会科学といった多面的な観点から遠隔会議を捉えていく必要があると考えています。

この十数年間、遠隔会議とは何かと自分なりに考えてきた上で見えてきた私なりの今後の方向性です。

今思うのは、遠隔会議システムの本質に迫るということは、人の一生を費やすだけでは到底わかりえない、気の遠くなるような壮大なプロジェクトだということです。やらなければいけないこと、勉強をしなければならぬことが膨大にあります。しかし、それをやらなければ遠隔会議への本質には迫れないと考えています。

私には橋本さんのようなことは出来ないと言われてたんですが、私はこう答えました。「こういった意識、考えに至る経験をしたからです。あなたと私とは経験が違うというだけです。遠隔会議について見えているものが 180 度違うということです。人間は経験をしない限り、あることの意義について気づいたり、理解したりしないものです。この前の震災で当たり前の生活がとても貴重なものだと思いが付きましたが、私はそれと同じ様な気づきを遠隔会議について得たのです。だから続けられるわけです。」と。

次号もよろしくお願ひ致します。

CNAレポート・ジャパン 橋本 啓介